

KODAK COLOR CONTROL PACHETES
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



當世層々讀家
四

へ遠 13
2.006
4



18
2006
4

南世下く自漢義卷四

清陽山
静観房好阿述

○鶴教退下流野茶海法々々

湖上竹吟ぐ落日の邊高秋蕭索うて倍凄然指傳
つて下して指さるる人流然句ふまうて句波はるま
秋の夜といふに月白き際赤の魚さく。青うう。露を汁も
香法も度。あうさ。の杖引すりて。彩透母りせうりて。歩け
はつとく。茶海法。度。料。八。銅。海。師。務。後。退。下。と。と。と。付。心
る。乃。蛇。出。入。に。つ。激。と。あ。り。世。大。海。の。灯。光。正。あ。え
い。流。次。り。加。加。加。加。り。寤。音。の。懸。と。肉。入。て。見。ま。は
海。法。も。う。や。ま。さ。あ。い。と。日。ん。く。宿。の。主。が。ま。り。茶



文川下... 卷四

釜の下北火を去火し。茶碗洗て序はる侍。今少きや
ふあつはと。殊なきじ。入口の板ふりしむく。安海
師一調子張とく。嘉長の比。修徳の園。女の鬼ふありと
るど。おてのかりきりし。ふ事ありて。其比北目をうり
日毎又京白河の人。鬼は多きとて。出まじ。おあつは西堂
寺ふ多りり。今日を遊んまらへ。唯今ハそくふ
あんどいひあつり。海さし。日さし。ふふ今あつて
らじ。く。今も好し。ふ下。唯鬼の事。北といひや。其
比。東山より。安海院の事。北は。たり。おあつは。り。かき。ぬ
の人。皆。おまき。く。く。く。く。一。条。室。町。小。鬼。あり。く。罵り

あへり。今。出。川。の。き。う。り。日。ん。や。ま。院。の。直。様。友。の。あ。て。
け。ふ。さ。り。く。く。も。あ。つ。は。寺。り。こ。ん。く。り。く。く。
け。あ。き。事。ふ。河。く。さん。あり。く。く。人。を。や。り。て。日。ん。さ。り。に。
た。か。く。あ。つ。る。と。の。お。し。者。ら。ま。や。か。く。立。法。を。さ。て。果。六
團。淨。た。り。り。て。洗。き。し。く。事。ど。も。あ。り。り。その。比。丹。一
あ。ま。の。こ。三。日。人。の。う。り。く。事。信。し。と。り。彼。鬼。の。さ。く
く。く。く。く。し。と。ま。め。く。り。あ。ま。く。く。人。を。信。し。是
と。く。つ。ま。く。茶。舟。舟。一。段。め。れ。く。又。海。江。院。利。て。世
後。の。け。ぬ。さ。く。く。く。と。信。し。て。諸。り。信。へ。ま。ま。も。人。を。信。
惑。し。く。為。ま。あ。つ。る。愚。さ。と。あ。ま。さ。い。さ。く。く。後。例

の意好の仁む。末代の人。此辰を多事ふ。只ねが。此言
 人。と。座ま。一。想。ど。く。首。も。今。も。何。者。の。何。乃。不。得
 あ。り。て。う。と。一。云。を。遠。り。出。し。一。云。解。く。と。事。母。悪
 体。業。ふ。か。年。々。と。を。さ。う。お。成。成。と。る。流。云。の。喜。況。徳。を
 なく。毎。年。化。さ。せ。て。融。を。母。と。い。ひ。一。盃。け。く。酒。く。と
 喰。あ。く。元。中。も。た。の。一。金。後。鼻。の。下。意。ゆ。こ。う。なる。人。こ。お
 ら。び。や。此。世。を。寛。永。十。四。年。の。一。海。う。と。よ。醫。術。虫。と
 する。利。刃。の。牙。も。さ。さ。この。よ。あ。し。ら。る。妖。孽。也。と。い。ふ。り
 して。海。へ。一。走。ま。く。進。り。と。い。ふ。人。を。な。さ。ふ。か。ん。を
 聖。し。の。由。深。宏。を。命。依。が。覺。次。身。魂。が。振。神。回。の。比。丘。尼

の。れ。案。ま。へ。お。し。や。長。なる。黒。髪。を。元。結。深。う。り。海。川。と
 常。り。進。し。と。毛。も。な。ひ。虚。と。い。ら。し。と。一。人。あ
 ら。な。ふ。ま。の。な。く。家。も。し。の。あ。ま。と。云。傳。へ。さ。す。夜。も。さ。さ
 既。中。と。ふ。り。神。也。と。い。て。夏。も。む。成。と。い。ふ。お。と。ま。た。の
 さら。る。福。ふ。亦。其。虚。徳。の。よ。深。一。多。の。後。切。虫。の。陰。の。お
 う。と。い。ひ。け。け。も。京。都。より。下。は。さ。さ。と。を。ま。な。不。く。と。言。ひ
 て。あ。り。と。異。國。と。り。悪。魔。の。扱。乃。吹。あ。る。お。や。く。吹
 り。と。海。邊。の。神。也。と。い。ふ。く。く。く。く。と。い。ふ。家。の
 門。を。不。強。り。り。能。お。も。佩。く。を。早。於。後。ハ。其。髪。切
 虫。と。い。ふ。家。の。小。河。の。葉。乃。神。也。と。い。ふ。の。下。に。強。也。と。い。ふ。



源氏物語

卷四



源氏物語

卷四

膏の中へかゝる。面くいりし。使急成おこす。くも活あり
 くふく多引。森も感心かんしんの降り。一生ふなり。大風正
 出しく。八洞の夜科やせへ。尤文垂く。由事よし互一。殊ことは
 下中したちゆう存ると。大層おほいが小判せうばんを考出し。と。怒いかで海りぬ

尚世下くは漢成先四終

